

## 井出野 尚 講師

## 【いでの たかし】

高崎経済大学をはじめ、複数校で心理学関連科目の非常勤講師をしています。近年では他領域との共同研究が多く、脳機能画像や眼球運動なども使います。

好きなものは、コーヒー、グミなど、たまにサッカーもします。



●社会心理学

「どうしてあの時あんな事をしたのだろう」、とか、「あの人の言っていることの本当の意味は何だろう」、といったことを、皆さんも一度は考えたことがあるのではないのでしょうか。日常的に感じる心に関する問題をどのように考えれば良いのか？ 私が心理学へ興味を抱いたのは、そうした素朴な疑問がスタート地点でした。

私たちが心の問題を考える時、それは他の人がいる状況についてであることが多いと思います。そして、他の人がいる状況を社会と位置づけるなら、心の問題は社会と切っても切れない関係を持つということになります。日々体験する心に関する不思議を研究したいと思っていた私にとって、社会心理学へ興味を抱いたのは自然なことだったと思います。

私たちの日常を観察していると、分かっていてもやってしまうこと、あるいは、知らず知らずのうちにやってしまうことなど、思うようにいかないことが多々あると思います。私たちの心の働きには、自分では意識化できない部分があるようです。私が一貫して扱ってきたテーマは、潜在的認知と呼ばれています。ここでいう潜在とは、本人が意識できないといった意味です。また、認知とは、認識に関わるシステムやプロセスを指します。

一つ例を挙げます。「90%の確率で成功する手術」と言われた場合と、「10%の確率で失敗する手術」と言われた場合では、手術への印象が全く変わってしまうのではないのでしょうか。この現象は、ノーベル経済学賞を2002年に受賞したダニエル・カーネマンが発表したもので、フレーミング効果と呼ばれています。我々の判断は、表現の仕方といったものに、知らず知らずのうちに影響を受けているのです。

潜在的認知は、主に社会心理学や認知心理学で検討されてきましたが、人の振る舞いを考察する、様々な領域との共同研究を可能とします。そのため、私の研究領域は経済学や消費者行動研究、臨床心理学や工学など、多岐に及んでいます。

講義では、様々な社会場面での人の振る舞いの特徴を紹介して行きますので、一緒に日常的な問題を考えていきましょう。

## 意識化できない心の探求

## 受講生のひとこと



誰もが一度は経験したことのあることが、どんな心の働きによるものだったのか。井出野先生の社会心理学は新鮮かつ、共感を得られる話が満載です。講義の内容を一方的に聞くだけではもったいないです。見た目はとつきにくい印象ですが、先生は研究者にしては少し変わった経歴をお持ちなので、僕らと近い目線で話してください。いろんな意味で「おもしろい勉強」ができました。

2008年入学 鎌田 浩平